

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調として、一人一人の児童を大切に、自己肯定感を育む教育を推進することで、社会に貢献できる心身ともに健康で知・徳・体のバランスの取れた人間性豊かな児童の育成をめざす。

○ やさしい子 ○ がんばる子 ○ げんきな子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	～児童・保護者・地域から信頼され愛される学校～ ・基礎学力が定着し、豊かな心が育ち、いじめを許さない学校 ・全教職員が創意を發揮し、熱意と誠意をもって、協働している学校 ・家庭、地域、異校種、関係機関等と連携し、安全・安心で開かれた学校
○児童・生徒像	・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」が生まれ、将来の社会を生き抜く力の基礎が育っている児童 ・互いの気持ちを思いやり、人権を尊重し、規範意識をもった児童 ・進んで運動に親しみ、心身を鍛える健康な児童 ・大きな夢をもち、自分の課題を最後までやり遂げる児童
○教師像	・教師としての使命感・熱意・愛情をもち、社会性に富んだ教師 ・児童にとって、楽しい授業、よく分かる授業、主体的に学ぶ授業を工夫できる教師 ・安全、安心に配慮し、子ども一人一人を大切にされた教育を推進する教師 ・保護者や地域の人々と連携し、児童や保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 学校の現状

【児童】児童数の減少による人間関係の固定化が懸念されるが、素直で穏やかな児童が多く、仲良く、協力し合って生活している。他学年との交流も多く、学年の枠を越えて友人関係が築けている。学校では学習を真面目に取り組み授業中も落ち着いている。学校・学年行事等で代表児童となる機会が多く回ってくるので、皆の前で発表することに対する苦手さが克服できている。また、読解力や自ら考え表現することと、家庭学習の習慣化等の課題が克服されつつある。ICT機器の取扱いには抵抗感がなく、1年生から全員がAIドリルや、グーグルクラスルームを使いこなしている。朝の遅刻が多い。

【教職員】学級担任の多くが教職10年未満の若手教員であるが、自らの職務に責任をもち、自己研鑽・啓発に努めている。少人数のため、学級担任以外でも全校児童の実態を把握しており、直接児童に話しかけたり、一緒に遊んだりする場面が多く見られる。

【保護者・地域】学校の教育活動を温かく見守ろうとする保護者や地域協力者が多く、教員も保護者から励まされることがある。一方、教育に対する関心や基本的な生活習慣の定着に関しては、各家庭事情もあり差が大きい。保護者会への参加率は低いが学校行事や授業参観等には進んで参観している。

(2) 前年度の成果と課題

・区調査の結果では、昨年度比で、通過率が国語4.2P、算数11.1P、正答率が国語7.1P、算数6.6Pと大きな上昇が見られた。要因として、日々の授業へ取り組む態度改善と、自ら問題を見出し解決する児童を目指した校内研究による教員の指導力向上が考えられる。観点ごとに見ると「書くこと」に関する正答率が全国平均を下回っており課題となる。家庭学習の充実により学習習慣を定着に努めるとともに、短作文や学んだ漢字の活用をさせる取組により語彙力・書く力・読解力の向上を図ったが、学年により取組に差が出てしまった。

・文部科学省リーディングDXスクール事スクール事業連携協力校として、1年間研究を進めた結果、AIドリルの活用、ICTを活用した授業、クラウド機能を活用した校務改善等での成果があった。

・通塾率の低い本校においては、校内での計算・漢字検定が有効に活用され、学習習慣の定着、学習意欲の向上、基礎的基本的な内容の理解につながった。

・校内研究を理科・生活科に絞り国立教育政策研究所教育課程実践検証協力校に指定されたことで、教員の授業力向上につながった。

・心と体の健康づくりについては、オリンピックタイムや、持久走、短縄、長縄等の取組を計画通りに実施することができた。

・「学校で朝ごはん」等の特色ある教育活動の充実を図り、体力向上を目指すとともに、健康教育や食育を継続していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	教員各自の専門性の向上	◎	◎	○	○	○
3	心身の健康づくり	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
①「読む力」「書く力」「語句理解」「計算力」等基礎学力の育成 ②主体的に学習に取り組む児童の育成		①区調査（4月）の通過率 国語 80%、算数 80% ②家庭学習の定着率 70%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規拡充	漢字・計算 検定の実施	全学年 国語・ 算数	年間 8 回（漢 字・計算 各 4 回）	各学年の学習内容を修行編としてプリント配布半月後に検定実施、全問正解するまでフォローアップ	1 回目の受験で満点を合格として合格者の割合を毎回算出	全学年平均 70%以上	自己評価の際に記入		
2	宿題以外の家庭学習の充実	第 2 学年 以上 全教科	年間(第 2 学年は後期から)	家庭学習の習慣化と興味ある学習等で「自ら課題設定し追究する力」の育成 ・宿題とは別に自ら考えた課題で家庭学習を行う ・模範となる自習ノートのデータベース化	①各学年の模範事例をデジタル化してフォルダ管理 ②児童アンケート	①10 月までに全学年 10 例以上を掲載 ②家で宿題以外の勉強をする児童 70%			
3	A I ドリルを核とした I C T 活用の推進	全学年 全教科	通年 特に算 数授業 と家庭 学習で	全児童が日常的に A I ドリルを活用して知識技能面を重点的に学習（特にデータ蓄積も兼ねて、家庭学習を含めて積極的に活用）	週 1 回以上担任が点検	算数で A I ドリルを全児童が活用し、強化月間で平均 400 問以上			

4	全学年による英語学習の継続	全学年英語	通年低学年10時間	第1、2学年は指導計画に基づき外国語ADと協働で授業を実施 小中連携でTT授業を実施	年間計画に基づいて実施	第1、2学年において年間10回以上の外国語授業を実施	自己評価の際に記入
5	作文タイムの実施	全学年国語	6月までに週1回以上	パワーアップタイムの時間を活用し、低学年50文字程度、中学年以上100文字程度の作文を毎週実施 (第1学年は7月から)	9月から12月のワークテストのうち国語「思考・判断・表現」の正答率	第2学年以上で80%	

重点的な取組事項－2		教員各自の専門性の向上									
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題	達成度				
①全教員が児童主体で学ぶ問題解決型の授業を展開できる ②全教職員がICTのスキルを高め、日常的に活用できる		①区調査で「学校での授業はわかる」と回答する児童90%以上 ②ICT機器を活用した授業を低学年週5時間以上、高学年10時間以上		自己評価の際に記入							
B 目標実現に向けた取組み											
項目	達成基準	具体的な方策						実施結果		コメント・課題	達成度
A Iドリルの活用	活用強化月間で解く問題数を第3学年以上の平均が500問以上	<ul style="list-style-type: none"> ・キュビナで全教職員がドリル作成できるように6月までに研修を実施 ・サマースクールで、全学年が3日以上キュビナを活用 		自己評価の際に記入							
児童主体の問題解決型授業を展開（各教科）	児童が自ら問題を見だし、解決する授業を生活・理科で実施（低学年3単元以上・高学年6単元以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会で授業研究を6回以上実施 ・2月までに3年間の研究の成果を共有 									
ICT機器を活用した授業改善・校務改善	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT機器を活用した授業を低学年週5時間以上、高学年10時間以上 ②校務でのペーパーレス化で紙30%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で活用する汎用性のあるアプリ一覧表の作成 ・職員会議、研修会で教職員クラスルームの活用 									

重点的な取組事項－3		心身の健康づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
① 「投げる力」を中心に、体力の向上を図る。 ② いじめ防止の徹底と早期発見、早期対応、早期解決、深刻ないじめの根絶		① 「ソフトボール投げ」の東京都Tスコアを第3学年以上で男女とも47以上 ② 4か月以上継続するいじめの件数が0	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
オリンピックタイムの充実	・体力調査で、全学年男女全種目(96項目)のうち50%(48項目)以上が都平均以上	・オリンピックタイムで実施している種目の見直し(4月) ・11月持久走の取組、12月短縄の取組、1月長縄の取組	自己評価の際に記入		
教員の体育指導力の向上	・年2回の体育実技研修会を実施する。	・2領域以上で実技研修会 ・自主研修会で体育研修実施			
「学校で朝ごはん」の計画的実施	・栄養バランスのとれた朝食で一日をスタートする習慣を身に付けさせるため、年間6回以上「学校で朝ごはん」を実施	・民間企業からの支援金を活用し食材を購入し、地域ボランティアの方の調理による朝ごはんを提供(全校を2グループに分け、希望する児童を対象に実施)			
いじめの早期解決	・いじめ防止研修年2回以上、Hyper-Q研修会年1回以上実施 ・把握したいじめを1週間以内に入力、4か月以内に解消	・いじめ防止研修会とHyper-Q研修会を前期中に実施 ・毎月の生活指導全体会で、いじめに関する案件を把握			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他(学校教育活動全般について)